

## 岳南中エコクラブ紹介

---

平成9年度からエコクラブを設置し、「できることから始めよう」を合い言葉に、県内外の人と環境について交流しながら活動を進めています。

---

### エコクラブのあゆみ

#### 平成9年度の活動

鈴川・二又の水質調査

古紙でのリサイクルメモ帳作り

使用済みテレホンカード集め（木の苗に変えるプロジェクトチームへ送付）

酸性雨調査（全国の小中学校とインターネットを利用して交流：南日本新聞に掲載）

自動車の排気ガスを水に溶かし、その酸性度を比較する実験

校庭の土の酸性度調査

電気自動車試乗（町報・トヨタ自動車社内報に掲載）

（役場の担当の方に説明を受ける。）

98県エコクラブ壁新聞セッションへ応募

#### 平成10年度の活動（28名で活動）

水の浄化実験

屋久町ゴミ焼却場見学（役場の担当の方に説明を受ける。）

県河川水辺のネットワークに参加（県内の小中高・一般の方と電子メール等で交流）

ホームページ発信（<http://www.satsuma.ne.jp/kasen-net/gakunan>）

県子どもエコクラブ交流会参加（屋久島にて）

朝日川の清掃，調査

（この川の下流にはホタルが舞う場所があるのですが上流を見ると肥料袋が木に引っかかっているところがたくさんありました。「小川のパトロール」と称して観察・ゴミ拾いをしました。K Y T取材：調査の様子と元部長・萱嶋君，顧問・脇田のインタビューが放送される。南日本新聞に掲載：水質調査の写真入り，元部長・萱嶋君のコメントあり）

学校周辺の虫観察（バッタ・トンボ・ちょう・・・をスケッチ）

屋久島国際シンポジウム参加（TVで放映：元部長・萱嶋君が地域生徒代表としてパネルディスカッションに参加し意見を発表。意見は「こねっと電子新聞

<<http://www.wnn.or.jp/wnn-s/>>」「毎日中学生新聞」「屋久町広報・杉の芽」などに紹介される。）

こねっと電子新聞等への投稿（月1回屋久島からのメッセージとして）

アニメ平成狸合戦ポンポコ視聴（環境問題を風刺した映画）

発泡スチロール溶解実験（MBC TV取材：どーんと鹿児島で放送）

99県エコクラブ壁新聞セッションへ応募（県代表に決定）

全国子どもエコクラブフェスティバルに5名参加（北九州にて）

「環境学習セミナー」(教職員対象)にてエコクラブ実践事例発表(屋久島環境文化研修センターにて)

平成11年度の活動(16名で活動)

環境ホルモン講演会参加(天笠啓祐氏「私たちの暮らしと環境ホルモン」)

朝日川観察・調査

栗生川酸性度調査(あゆみ出版取材:9月発行の本に掲載予定)

---

雨のpHを調べた生徒の感想

雨のpHを調べた生徒の感想

屋久島には酸性雨は降っていないと思っていたが、いかに降っていた。酸性雨によって森林が失われつつあります。森林の多い屋久島は何十年後かには世界遺産から世界悲慘になると思います。だからそうならないためにも酸性雨がなくなるように努力したいです。

-----

屋久島でも酸性雨が降っているけれど、島内の車だけではあまり関係なさそうだから、外国の排気ガスや煙がきているんだなあ実感しました。これは世界的な問題だからみんなで取り組まなければならない問題だと思いました。

---

エコクラブの活動をして～子どもの感想～

生まれてから、ずっと屋久島に住んでいたのだから、屋久島の自然がどんなにすごいかわからなかった。今はまだあんまり偉大さがわからないけど、大切にしなければいけないなという気持ちになっています。どうやったら酸性雨を減らせるのか。どうやったら自然破壊をせずに屋久島を活気のある島にすることができるのか、考えることが必要だと思います。

エコクラブに入る前までは環境についてはあまり興味はなかったけど、エコクラブに入って環境についてよくわかってきた。これからは環境について調べていきたいです。

何気なく使っている物、していることで環境によくないことがたくさんあることがよくわかった。1つの問題から、たくさんの大きな問題になっていくので、小さなことにも気を配らないといけないなということを感じました。

---

屋久島のゴミ問題について 真津達巳

この焼却場は最近まで、家庭から直接ゴミ焼却場にゴミを出せば分別なしでよかったらしいです。そして、そのゴミは大きな穴の中で野焼きされ、ダイオキシンを含んだ白い煙を出していました。ゴミ処理施設の整備は後回しで、焼却炉の老朽化捨て場の延命のために、野焼きをしていた。そのため、野焼きは中止、分別も徹底することになり、少し

ずつ改善されてきた。しかし、まだゴミが多いのが現実で、改善されてきた、といってもあまり変わっていないように感じます。いくら屋久島が世界遺産に登録されているといっても、少しずつよごれてきているのが、この2つの状況で十分わかりました。

そのため、ゴミが少なくなるよう2つの案を考えてみました。1つはデポジット制度で、ジュースを120円、缶を10円とみて130円で売り、飲み終わった缶を出せば、缶代の10円を返すという考えです。つまり、購入者は、120円（普通と同じ値段）を払うことになるわけです。返した缶をリサイクルすれば、120円で買った時よりはリサイクルに役立ったわけです。もう1つは観光客を含めた島外からの来島者には入島料をもらうことです。そうすれば、入島料としてのお金を環境保護に役立てられるのではないかと、思ったからです。このように、少しでも屋久島からゴミが減るように努力し、いつまでもこの自然が残っているといいです。

#### 屋久島への想い 脇田武志

島という環境を逆にうまく利用したゴミ減量化はできないだろうか。島だからこそ、自動販売機は置かずデポジット制度を徹底するなどリサイクル・リデュースシステムを作る試みもできるはずだ。また、観光客を含めた島外からの来島者には入島料をとり、そのお金を環境保護のために利用するなどの思い切った対策も考えられる。（入島料をとってもおかしくないすばらしい自然環境である。）

島はいい意味でモデルケースになる可能性も持っていると思う。いや、そうするべきであると思う。一年でも早く、いや一日でも早く行動を起こさないとこの島はゴミの山になるかもしれない。そのためにも、私たちができることから始めなければならないと思う。

学校の近くの川の水質を調べましたが、結果は思ったより汚れていました。住宅地の間を流れている川だったので、生活排水が流れ込んでいたためだと思いますが、自然の中で人が生活していく事の難しさを感じました。この事は、町のゴミ焼却場を見学した時にも強く感じた事です。昨年暮れから燃やせないゴミとして分別収集しているビニールやプラスチック類などのゴミが、敷地内に山積みになっているのを見て呆然としてしまいました。人間が生活していく上で、毎日毎日何らかの形でゴミを出し続けているという事に気づく事が、最近よく耳にするようになった「ゼロ・エミッション構想」という考え方につながっていくのではないかと思います。

今後は、これらの環境に関する調査などを継続することによって、自分達の住んでいる屋久島をより深く知り、またその変化をチェックしていくという意味でも、活動を続けていく事は意義あることだと思います。屋久島は車も少なく、大きな工場などもほとんどない島なのに酸性雨が降ってくるということは、屋久島だけでは解決できない問題を含んでいると思います。もし、その原因が大陸から流れてくる大気汚染物質によるものだとすれば、人々が住んでいる所と、宮之浦岳などの高い山との両方で大気汚染調査などをしてみるのも良いかもしれません。

屋久島は世界自然遺産に登録されてから5年が経ち、マスコミなどを通じて日本中に知られるようになりました。しかし、その映像の中には、ここに生きる人々の生活があることはあまり表現されていないような気がします。世界遺産という言葉が生まれるずっと大昔から人はここで生きてきたし、またこれからも生きていかなければなりません。だからこそ、屋久島に住んでいる僕たちが自然と共にどう生きていくのかを真剣に考えていきたい。

---

#### 環境ホルモンに関する講演を聴いて 生徒感想

農薬などの影響で、鳥のメスの卵のからがうすくなったり、鳥が自分の卵をこわし、それを食べてカルシウムをとっていたり、他の動物も群れて死んだりしていた。農薬はすごい(こわい)力があると分かった。(1年S・H)

環境ホルモンについてよくわかった。環境ホルモンは次の世代もだめにしてしまうことがとてもこわいと思った。(2年M・O)

この講演会に参加して、環境ホルモンについてよくわかりました。屋久町ではリサイクルが盛んでないけど、(環境ホルモンの害を防ぐためにも)もっとリサイクルを進めていけばいいと思いました。(2年R・R)